

歴史を未来へ！

SDG s モデルとしての行基事績の再評価

堺行基の会 前田秀一

1. はじめに

およそ 1600 年にわたる堺の歴史において貴重な有形・無形の文化財が多く築き上げられ、その代表例として百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録されました(2019年7月)。

これら堺に固有の文化財は、堺市民が市民としてのアイデンティティを築く仕掛けであり、世に誇り、その自覚の上に異文化を受け入れ、共生の価値観を醸成する貴重な財産と言えます。

2015年9月開催の国連サミットにおいて、2030年を年限として「誰一人取り残さない」を基本理念のもと持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け17の新たな国際目標が設定されました。



SDGs (持続可能な開発目標) を「自分ごと」として取りくみます！



SDGs未来都市・堺
Sustainable Development Goals Future City, SAKAI CITY

堺市はSDGs未来都市としてSDGsの達成に取り組んでいます。私も堺市の取組を応援します。

承認番号：令和4年第024号(前田秀一)

「堺の魅力の再発見・再生・創造・発信」

私は、「持続可能な開発目標」(SDG s) 17項目の内、「4. 質の高い教育をみんなに」を基盤として「5. ジェンダー平等を実現しよう」、「10. 人や国の不平等をなくそう」、「11. 住み続けられるまちづくりを」、「16. 平和と公正をすべての人に」、「17. パートナーシップで目標達成しよう」を重点としてその達成に貢献します。

今を遡る1300年前、郷土(堺市および大阪狭山市)が誇る僧・行基は、「大宝律令」制定のもと発布された「僧尼令」(701年)をきっかけとして、法興寺(現飛鳥寺)を辞して帰郷し、生家を「家原寺」と改称(704年)して郷里の人々をはじめ民衆の教化と救済に乗り出しました。

705年には郷里の人々に請われて大須恵院(現高蔵寺)を建立し斜陽化しつつあった地元の須恵器産業を再生し平安時代までの約500年間にわたり日本の代表的な須恵器生産地として繁栄へ導きました。

723年、開墾田の三世代私有が認められた「三世一身の法」が発布されると、これを契機として行基は多くの知識(*1)を集め750年までに多くの社会的事業を成し遂げました。

727年には、民衆が特別な技術がなくても自分にできる奉仕の力で土を盛り上げ信仰の支柱として塔「土塔」を造り上げ、福田(ふくでん)思想(*2)による利他行(*3)のシンボルとして国の史跡

指定（1953年）のもと、堺市の総合的な発掘調査を経て整備復元されました（2008年）。

* 1 : 行基を通して仏縁を望む人々 * 2 : 善い行為の種をまいて功德を得る * 3 : 自分の利益より他人の利益を優先する

行基の行くところ追隨する民衆は後を絶たず、時には1,000人にも及んでいたと伝わり、反社会的人物と警戒もされましたが、遂には知識集団とともに利他行をなす人物として評価され、聖武天皇からの要請を受けて国家のみならず民衆社会の安寧を祈願する盧舎那仏金銅（大仏像）の建立に協力しました。

このような行基の幾多の社会的事績は、2030年に向け「誰一人取り残さない」を理念として取り組むSDGs（持続可能な開発目標）の概念に重なることが多く、SDGsの視座から堺市民として身近に感じている僧・行基の事績を通して「SDGs」の有意性に気付き学ぶことを目指したいと考えます。

2. 「誰一人取り残さない」 八世紀 行基の世界

1) 『行基年譜』行基七十四歳 聖武十八年 天平十三年（741年）三月掩留山城国の条

行基74歳の時、泉橋院に行幸した聖武天皇を迎えて終日対談し、「大国（唐）には給孤獨園があり孤独の徒を養育するが、吾が日本国には給孤獨園はない。このため為名野（猪名野）を請うて給孤獨園となしたい。」と申し出て天皇の宣命を受けました。

「給孤獨園（きつこどくおん）」

「身寄りのない老若に給する施設」

孤：父なきなり⇒孤児、

獨：老いて子の無き者

『日本後紀』弘仁三（812）年八月条

「大僧正行基法師が孤独を救うために摂津国に置いた惛独田（けいどくでん）一百五十町を国司に耕種させよ」と勅をもって命じている。

少なくとも、弘仁の頃には、行基集団の地に150町歩（45万坪）の経済基盤を有した給孤獨園を創建し、国家（朝廷）も公認する存在であった。

2) 給孤獨園（きつこどくおん）について

お経は、お釈迦さま（=仏）が一人一人に説かれた教えをまとめたもので、その数84,000もの数があるとされています。その基本のお経の一つ『仏説阿弥陀経』の冒頭に「祇樹給孤獨園」という言葉が出てきます。給孤獨園は、略して「祇園」ともいわれています。

祇樹は、祇陀（ジェータ）太子の所有であった林地をいい、給孤獨（きつこどく）とは身寄りのない者たちに食を与えている人ということ。

舎衛城の南にあった園林（精舎）で、祇陀太子の所有であった土地を、須達（スダック）長者が大使より買いうけて仏陀（お釈迦様）に献上したのでこの名がつけられました。

『行基年譜』 行基七十四歳 天平十三（741）年三月掩留山城国の条

行年七十四歳已 或云此記天平十一年云云
聖武十八年天平十三年辛丑二月掩留山城国
泉橋院、十七日申、天皇行幸給、奉拜大僧正矣。拜
訖給、御座終日並談説給。尔時大僧正言、大国者
有給孤獨園而養息孤獨徒。但吾日本国无給孤
獨園、是以請為奈野而為給孤獨園ト白支。爰天皇
答給ク踏命宣旨、又演院ト建立者、又天皇報答ク建
立院ト堺地世ト不絶、不被官司撰録ト宣支云、即
奉施食封一百戸。同日申宣命。同年六月十六日
左大臣橘朝臣奉施食封五十戸、又使工匠造悉
物頭現形像一軀、待徒比丘像曰軀、安置於泉橋
院。同月廿六日、天皇玉躬、如馬巡於泉川、請大
終日譙梁。大臣彈琴云、蓮葉ニ湛禮留水ノ玉ノ如比加
禮留人尔安布曾右禮志佐云、
天皇和歌云、大寺奉禮笑合悦アト云云
皇花如久仁未留人ニ吾シ念部波故ト仁相ヌル、但
所施封戸聖人不受、仍量大藏省曰、遷化之後、大
小寺誦経了云、

出典：井上 薫編1997『行基年譜』285頁 図書刊行会（一部加筆）

鑿二声〇〇 出音八調ミ
● 仏説阿弥陀経
同音に上
如是我聞一時 佛在舍衛国 祇樹給孤獨園
与大比丘衆千二百五十人俱皆是大阿羅
漢衆所知識長老舍利弗摩訶俱絺羅憍
跋提婆多利
迦葉摩訶迦旃延摩訶俱絺羅憍跋提婆
槃陀伽難陀阿難陀羅睺羅那薄拘羅阿
盧頗羅墮迦留陀夷摩訶跋提婆那薄拘羅
阿

桃奉三蔵法師鳩摩羅什奉詔訳

『仏説阿弥陀経経』(冒頭部分)」の大意：

「次のように、私はお釈迦様の説法を聞かせていただきました。

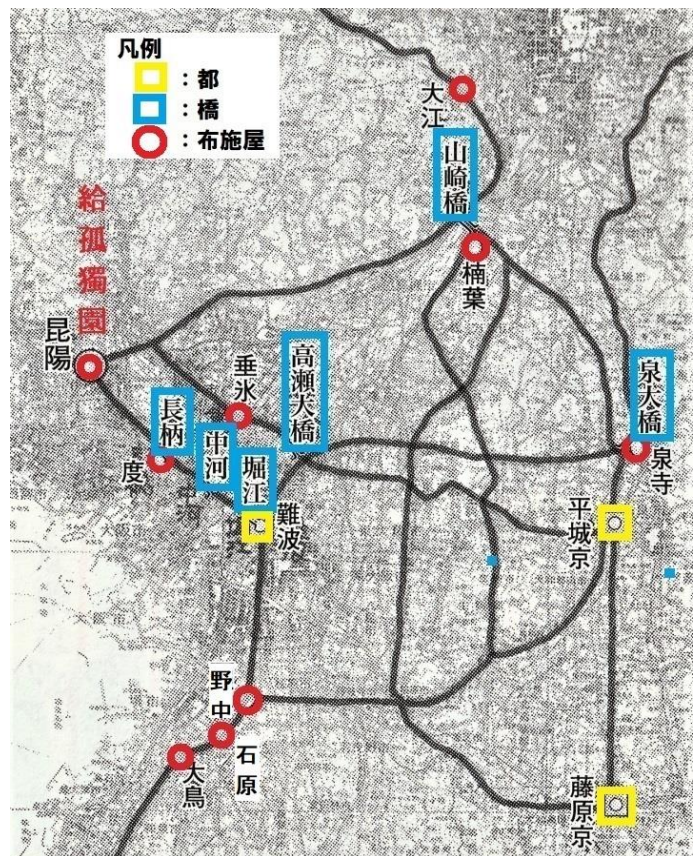
ある時、仏(お釈迦様)は舍衛城の祇園精舎においでになり、優れた修行僧たち1,250人と一緒にありました。・・・」

(引用資料：瓜生津隆真 1997『聖典セミナー浄土三部経Ⅲ阿弥陀経』12頁 本願寺出版社)

3. すべての道は猪名野に通じる

741年(天平3年)、行基は泉橋院に行幸した聖武天皇に身寄りのない民衆を養育する施設(給孤獨園)の建設を申し出て許され、猪名野に経済基盤も含め用地約150町歩(45万坪)を与えられ、水資源(池・池溝)を敷設して新しい水田を開発しました。

当時の人口集積地(大和、難波、和泉、淀川中・下流域、猪名野)から給孤獨園(きつこどくえん)を目指して道路や橋が整備され、布施屋が位置して、身寄りのない民衆救済(養育、安住)の社会体制として完成しました。



すべての道は猪名野(給孤獨園)へ

尾田栄章2017『行基と長屋王 行基集の水資源開発と地域総合整備事業』240頁 現代企画室 一部加筆

4. SDGsモデルとしての行基事績の再評価

SDGsモデルとしての行基事績の再評価

改訂：2023年4月2日 文責：前田秀一

側面	SDGs 持続可能な開発目標 世界を変えるための17の目標	八世紀における貢献度					行基事績
		1	2	3	4	5	
経済	8-働きがいも・経済成長も	→					・陶邑復興、水田開発(治水・用水対策)
	9-産業と技術革新の基盤をつくろう	→					・知識集団結集(土木・建築・木工技術)
社会	1-貧困をなくそう	→					・心に善を積ませ今を救い生活を向上さす
	2-飢餓をゼロに	→					・水資源(池・溝・樋)対策、水田開発
	3-すべての人に健康と福祉を	→					・布施屋設置、水田開発、給孤獨園建設
	4-質の高い教育をみんなに	→					・道場49院建築、平易な説教で民衆普導
	5-ジェンダー平等を実現しよう	→					・女性参加を認め、49院中13院院建築
	11-住み続けられるまちづくりを	→					・和泉、淀川流域(中・下)、猪名野総合開発
環境	6-安全な水とトイレを世界中に	→					・生活用水用井戸堀(伝説多数)
	7-エネルギーをみんなにそしてクリーンに						
	12-つくる責任・つかう責任						
	13-気候変動に具体的な対策を	→					・河道外貯留ダム式池、治水(濁・洪水)対策
	14-海の豊かさを守ろう	→					・海運目的に2港(大輪田、神前)施設
	15-陸の豊かさを守ろう	→					・水田開発(和泉、淀川流域、猪名野)
ガバナンス	10-人や国の不平等をなくそう	→					・律令社会から仏教社会へ橋渡し(大仏建立)
	16-平和と公正をすべての人に	→					・国家安寧事業(大仏建立)へ民衆参加
	17-パートナーシップで目標を達成しよう	→					・行基知識集団と技術集団統合連携

引用資料：Japan Innovation Network「SDGs17の目標は新たな成長の道しるべ」日本経済新聞2020年3月9日号

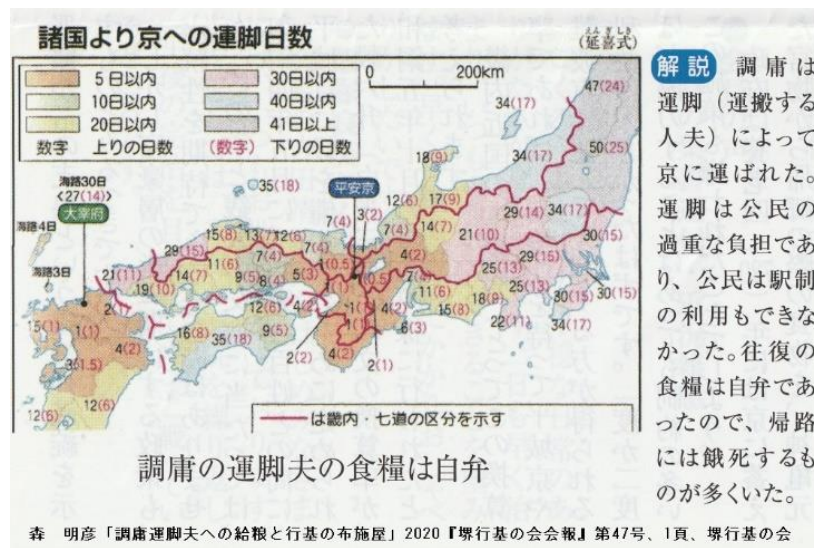
引用ブログ：前田秀一「行基活躍の時代背景と事績」(キーワード検索でお願いします)

◆誰一人取り残さない 八世紀 行基の世界

8世紀の時代背景の中で、行基は、貧困、不平等・格差、気候変動、水資源開発ほか身寄りのない人々の救済施設など国家的社会事業を「自分ごと」として成し遂げました。

「7. エネルギー」、「12. つくる責任・つかう責任」、「14. 海の豊かさを守ろう」など21世紀の環境変化と時代格差が大きい項目を除くと、SDGsの17項目の内、経済、社会およびガバナンスのカテゴリーに属する13項目に顕著な事績があり、給孤獨園の建設までSDGsの基本理念に沿う多くの社会的事業を成し遂げました。

701年(大宝元年)、大宝律令が施行され国家体制が確立した一方に、民衆は納税(米、地域産物等)と強制労役(都城造営など)に苦しみ、生活は疲弊し、戸籍地からの浮浪逃亡者や路上行き倒れ死など悲惨な状況が頻発しました。



行基は、福田思想(よい行為の種を蒔いて功德の収穫を上げる)など分かりやすい言葉で仏法を説き、疲弊した民衆を精神的に救済し、布施の思想や積善行為としての技術の意義を教え多くの民衆や技術集団が帰依し知識集団として組織化しました。

行基の社会的事業事績概要 (『行基年譜』「天平十三年記」より)

種類	数	所在
橋	6	山城(2)、摂津(4)
道路	1	河内と摂津に通じる道
池	15	河内(1)、和泉(8)、摂津(6)
溝(用水路)	6	河内(1)、和泉(2)、摂津(3)
樋(*1)	3	河内(3)
船息(港)	2	和泉(1)、摂津(1)
堀(放水路)	4	河内(1)、摂津(3)
布施屋(*2)	9	山城(2)、河内(2)、和泉(2)、摂津(3)
寺院(*3)	1 + 4 9	家原寺(生家) + 4 9院

【注】*1: ため池などから放水するための水門や管(樋門・樋管)

*2: 奈良時代律令制度の下、租、庸、調を収める民衆のための宿泊施設
および飢えや病に倒れた人々の救護施設

*3: 「天平十三年記」には寺院の記載なし、別途追記

知識集団の能力を活かして、国家的な多くの社会事業を成し遂げ、疫病や地震・災害の多発する社会不安の中、国家から行基集団へ大仏建立への参加が求められ、国家の社会統合のあり方を法的官僚制から仏教社会へ変化する橋渡しをしました。

14. 溝口優樹 2015 『日本古代の地域と社会統合』 吉川弘文館
15. 角田洋子 2016 『行基論 大乘仏教自覚史試み』 専修大学出版局
16. 尾田栄章 2017 『行基と長屋王の時代 行基集団の水資源開発と地域総合整備事業』 現代企画室
17. 堺市・市長公室企画部政策企画担当、環境局環境都市推進部環境政策課
2018 「持続可能な開発目標SDGs ～わたしたちの世界を変革する17のゴール～」
18. 舘野和己（大阪府立近つ飛鳥博物館館長）「太鼓古墳群と土師氏の関わりー墳墓造りを担った古代氏族」 2019 『中外日報』 2019年8月30日号
19. 「行基さん大感謝祭」実行委員会 2019 「行基さん大感謝祭 2019」案内資料（令和元年10月26日）
20. 森 明彦 「諸国より京への運脚夫日数」 2020 『堺行基の会会報』 第47号、1頁、堺行基の会

出稿：2023年2月1日